

令和 4 年度 大学塾 第 2 ステージ 開催案内

江戸庶民と武士の暮らし入門

江戸庶民の食事情と旅と遊郭の話、そして、江戸城での将軍や武士としての幕臣の仕事や制度、大奥の仕組みなどを紹介します。

また、江戸時代や明治期に来日した外国人は庶民や武士をどう見たかも学びます。



歌川広重「日本橋」

講師：大沢 正明 氏 江戸文化歴史検定一級

第 1 回 9/9 (金) 江戸庶民の食・旅・遊郭

第 2 回 9/17 (土) 江戸城での将軍・幕臣と大奥の仕組み

第 3 回 9/24 (土) 外国人が見た江戸庶民と武士

会場：足立区生涯学習センター(学びピア 21 内) 5 階 研修室 1

金曜日又は土曜日 全 3 回 午後 2 時～4 時

江戸のヒロイン ～歴史をつかった女性たち～

江戸時代は男尊女卑のイメージが強いが、歴史上では女性が重要な役割を果たしてきました。テレビでおなじみの足立区出身女優で、歴史作家のお江戸ル“ほーりー”氏が、江戸時代の歴史をつかったヒロインに焦点をあて、スライドに投影しながらどなたにもわかりやすく講演いたします。



八百屋お七



幕末の遊女



【講師】

お江戸ル“ほーりー”こと
 堀口 茉純 氏

足立区出身 女優、歴史作家、TV、ラジオ、講演等で活躍中、江戸文化歴史検定 1 級(最年少合格)

月 日	講 義 内 容
9 月 23 日 (金・祝日) 14 時～16 時	武家女性・・・将軍の正室となった天璋院と和宮 庶民女性・・・文学、歌舞伎、文楽の主人公、八百屋お七 芸能者・遊女・・・歌舞伎の源となった出雲阿国など

令和4年度 大学塾 第1ステージ開催報告

篤姫と和宮 大奥から見た幕末

5月7日(土)・6月11日(土)・7月9日(土)の3回にわたり生涯学習センター研修室1及び講堂にて開催された。講師は幕末の足立の郷土・日比谷健次郎の活躍を描いた小説「紅紫の館」の著者で、令和3年10月「幕末の足立と桜田門外の変・徳川埋蔵金・新選組」の第1回講師を担当された穂高健一氏。連載小説準備中でお忙しい中を、月1回というスケジュールで実現した。応募者は63名、受講者は59名、出席は第1回55名・第2回44名・第3回40名・合計139名であった。

第1回は「天璋院篤姫 将軍継承問題の激しい対立と大奥の政治力」として、幕末(12代~15代将軍)の大奥の内部事情や皇室との関係、御台所決定の状況が解説された。特に天保の改革を行った老中・水野忠邦に対し、大奥を代表して対立した大奥最上位の上臈・姉小路は「奥女中は禁欲の代償として贅沢をしているにすぎない」とやり返し、大奥改革を封じたというエピソードを紹介された。姉小路は公家で大納言の橋本実誠の娘で、12代家慶の正室・有栖川宮の喬子に従って大奥入りしたが、喬子死去後に大奥の実力者になり、後に篤姫の受け入れや和宮(姉小路は和宮の大叔母)の降嫁にも大きな影響力を与えた。

第2回は「皇女和宮の降嫁と家茂将軍の夫婦愛そして悲劇の物語」として、薩摩出身の篤姫の13代家定との婚礼から皇室出身の和宮と14代家茂との婚礼までが解説された。大奥の記録は全て焼却されて残っていないので憶測するほかはないが、幕末の将軍家は幼くして死亡することが非常に多かったがその理由は明らかではない。11代家斉は53人の子が誕生したが成人になったのは28人であり、12代家慶は27人の子があり、男子は14人いたが、成人したのは13代家定のみであった。



第3回は「対立する嫁と姑がお家存続で立ち上がる」として、篤姫が嫁いだ13代家定は34歳で早世し、14代には南紀派で井伊直弼や大奥が推す家茂が12歳で将軍となり、16歳の時和宮が嫁いだ。家茂は1866年第二次長州征伐の途上、わずか20歳の時大阪城で亡くなり、15代には慶喜がついた。慶喜は1967年大政奉還。篤姫と和宮は当初対立していたが、薩摩と皇室双方に徳川家の存続と江戸の無血開城を働きかける為に協力する様子が解説された。

受講者のご意見

・教えられていた歴史と違った側面での歴史の見方を知ることができました。新しい見方で歴史を見返すことができそうで楽しくなりました。・時代背景をおもしろく拝聴しました。クリミア戦争が日本にも影響を与えていたり、北方領土の話については知らないことでしたが、歴史の事実を知る必要がある。アイヌ系ロシア人の話を聞くとロシアが北海道を侵攻する話もあながちない話ではないと思いました。近代史(幕末からの話)を丁寧に教える必要がありますね。など。(糸井史郎)



令和4年度 大学塾 第2ステージ開催報告

「ひらがなの魅力をさぐる」やまとことば

7月5・12・19日の火曜日に開催されました。講師は原山建郎氏（日本文藝家協会会員・武蔵野大学仏教文化研究所客員研究員）、応募者29名、参加者26名で延べ75名でした。

今回の講座では、遠く卑弥呼の時代から21世紀まで、上古代日本の〈やまとことば〉を今に伝える「ひらがなの魅力」を古典や宮沢賢治などの詩を通して楽しみながらさぐりました。

第1回 〈ひらがな〉の成立とオノマトペ

- ・漢字が4～5世紀に伝わるまで日本は文字を持たず、口承言語（話しことば）の文化だった。
- ・漢字の伝来により、話しことばは、表音文字である漢字の音韻と語意を借りて作った万葉仮名で『万葉集』を編み、漢字の崩し字による江戸仮名の時を経て、現在のひらがなになった（明治33年）。
- ・〈ひらがな〉は、丸くて、柔らかくて、優しい。万葉仮名の流れを汲むひらがなは、上古代のやまとことばを現代に伝える「からだことば」であり、日本人の身体（遺伝子）に刻み込まれている。
- ・子どもは胎内で聞く母語〈ひらがな〉のリズムで育つ。「からだことば」として最初に出会うオノマトペ（ことばの卵）が、親と子の心をつなぐのである。
- ・オノマトペ（擬音語・擬態語）は、一つひとつの音と響きに、硬さや柔らかさ、明るさや静けさの響きがあり、それは言霊や音霊と呼ばれている。

第2回 まるい〈ひらがな〉、四角い〈漢字〉、とんがった〈カタカナ〉、フィーリング

- ・〈漢語〉は、四角く堅苦しい感じを与えるが、その文章を読んだり聞いたりした瞬間に漢字の意味が理解できるので、伝えることが最優先事項の時はよい。
- ・〈カタカナ語〉には、硬・軟二つの側面がある。一つは、英単語のカタカナ表記であり、英語の得意な人には歓迎される。もう一つは、外来語の言い換えである和製英語（デジタルとアナログ、コミュニケーション、イメージなど）で、直訳の日本語よりわかりやすい。
- ・四角い漢字の会話を〈ひらがな〉で丸くする。〈ひらがな〉は、伝える思いが相手の心に「やわらかく、あたたかく」届く。

第3回 〈あはれ・をかし・たのし・おもしろし〉の世界

- ・〈あはれ〉は強い感動を示すときの感動詞・名詞。深いしみじみとした感動・情趣をいう。後に日本文学の根幹として発展し、調和美・優雅美・静寂美・悲哀美などの内容を持つようになった。
- ・〈をかし〉は形容詞。清少納言の『枕草子』は〈をかし〉の文学の代表。対象を知的、批評的に観察し、鋭い感覚で対象をとらえることによって起こる情趣である。
- ・〈たのし〉は安定した、みちたりた快適の状態で、それを行為に示す自らの態度を言う。
- ・〈おもしろし〉は対象に対してもつ感情、心に楽しく思う意。

これらの世界を『枕草子』『古今和歌集』『土佐日記』『歌舞伎十八番』の名ぜりふを通して味わった。

受講者からは

・言葉の面白さ、大切さ、日本語の世界の学びにひきこまれた。・レジメの内容が詳しく、板書もあり、ジョークのある話法でわかりやすく楽しかった。・宮沢賢治作品の朗読になつかしい昔がよみ返り、日本の言葉のよさを再認識した。などの感想が寄せられました。

（板部 裕子）



足立区生涯学習センター主催 2030 あだち未来スケッチ 地域活動交流会

2030 あだち未来スケッチ 地域活動交流会 参加報告

日 時：2022年6月26日（日） 13:00～17:30

会 場：足立区生涯学習センター 講堂

主 催：足立区生涯学習センター

協働運営：文教大学国際学部学生ボランティア

足立区生涯学習センター主催、国際学部学生協働運営による「2030 あだち未来スケッチ地域活動交流会」が足立区生涯学習センターで開催されました。

◆ 第1部 地域活動報告 6団体の発表

各団体報告者からまちとの関わり、まちづくり参加、ボランティア活動などの報告若い人たちが、足立区内で活発に活動していることなどを聞いた。

① 染谷絵里 氏：一般社団法人おせっかい子育てプロジェクト代表理事

テーマ：子どもたちとママとの孤独に寄り添う

② 小林みはる 氏：あだちガイドヘルパーの会 事務局

テーマ：視覚障がい者のための活動に取り組んでいます

③ 元木千代丸 氏、野左近里緒 氏、飯田達也 氏：東京未来大学モチベーション行動科学部

テーマ：古民家、空き施設を活用したあだちの魅力発信

④ 舟橋左斗子 氏：千住いえまち 事務局

テーマ：のこすこと。つくること。つなぐこと。

⑤ 丸山有子 氏：株式会社 安心堂 代表取締役

テーマ：こどもCOMPANY ～働かってどうということ？

⑥ 樋山莉佳子 氏、阿部 敬太 氏、内田イオナ 氏：文教大学国際学部 4年生

テーマ：各自が参加している活動の報告

◆ 第2部 講演者と参加者とのグループ交流会

各班5～6名の11班に分かれ、団体の活動内容、課題等の意見交換を行いました。文教大学国際学部の学生ボラが生涯学習センターと協働運営していました。

◆ 第3部 基幹施設からの報告、案内

生涯学習センターより、生涯学習センターから生まれたサークル（2021年度版）紹介
帝京科学大学地域連携推進センター発行（令和3年10月）の「地域連携研究」紹介

交流会を通して、自身の活動での課題点やその解決策について、様々な視点での貴重な意見交換の機会を得ることができました。

<参加者：林 令子、篠原 英也（記）>



令和4年7月 運営委員会 報告・連絡

報告および提案

- (1) 連日、記録的な猛暑が続いておりますが、体調管理には十分ご注意ください。
また、講座の運営スタッフとして参加されている皆様にはご苦労いただき感謝いたします。先月の運営委員会にてメール申込を理解いただくため、メール申込のお試しをお願いしました。本日、ワークルームにてメール受付作業が実施できるようインターネット環境の構築についてご提案させていただきます。
- (2) あだち区民大学塾について
6月は「大奥から見た幕末」の2回目と「戦国時代の足立」と「芥川龍之介」の講座が開催されました。「戦国時代の足立」の3回目には瑞応寺に集合し、現地学習が実施されました。
7月には「大奥から見た幕末」の3回目と「信長・秀吉・家康 戦国三英傑の謎」と「ひらがなの魅力をさぐる やまとことば」が開催されます。運営スタッフの皆様よろしく申し上げます。
- (3) 7月の月例会
ワークルームでのメール受付作業の実施に伴い、メール申込状況とメール申込方法についての説明会を開催します。終了後、レストラン「さくら」にて「情報交換会」を開催します。
- (4) あだちサークルフェア 2022 の開催について
今年は3年振りに開催されることになりました。展示部門で参加したいと思っております。ボウ活部にて進めていただくようお願いいたします。第2回目の全体会議が7月9日に開催されますのでボウ活部長と出席します。

議事

- (1) あだち区民大学塾（検討会議・企画会議・地域協働講座）

「篤姫と和宮」	応募者 63名	穂高健一講師	5/7,6/11,7/9	受講者 59名
「戦国時代の足立」	応募者 56名	佐藤・柳沼・中島講師	6/2,9,16	受講者 34名
「芥川龍之介」	応募者 26名	種井・木口講師	6/6,20,27	受講者 27名
「戦国三英傑」	応募者 52名	平野明夫講師	7/1,8,22	受講者 45名
「やまとことば」	応募者 29名	原山建郎講師	7/5,12,19	受講者 26名
- (2) 各部局・PTからの報告および提案

次回運営委員会 8月1日（月）14:30から（研4）

令和4年度 7月 月例会 報告

① 「あだち区民大学塾」受講者メール受付について・・・篠原代表より説明

区民大学塾受講者のメール申込者は令和3年度36%、令和4年度は現在45%で更に増加の見込みです。今まで一人に対応してきたが、負担が大きく、リスクも伴うため事務局内にネット環境を整備し、今後は複数人（4～5人）で対応するようにします。受付手順、受講券発行等について説明があり、令和4年9月講座よりメール受付は複数メンバーで対応します。具体的な操作は当面篠原代表の指導の下に習熟することとしました。

② お茶懇親会

上記説明後、7階のレストランさくらにてお茶の懇親会を行いました。参加者は9名ほどでしたが、会員を増やすにはどうしていったらよいか、講座以外の行事を一般に呼びかけてやったらどうか、SNSを使って情報発信は？など、ざくばらんな話し合いをし、コロナ感染拡大中でもあるので1時間ほどで散会しました。（ボランティア活動推進部）



講座名：富士山科学研究所防災講座 富士山の火山噴火とその災害

日 時：9/4(日) 午前10時～11時30分
 対 象：16歳以上の方
 会 場：5階 研修室1
 受講料：600円（一律、講座当日にお支払い）
 定 員：50名（事前申込先着順）
 講 師：亀谷伸子氏（山梨県富士山科学研究所）
 内 容：日本は狭い国土に活火山が集中する火山大国です。なかでも、特に警戒されている火山が、富士山です。いつか必ずおとずれるともいわれる富士山の噴火。そのときに備え、どうすればいいか、考えましょう。

◎ 講座名：太宰治と日本の近代（3日制）

日 時：9/4(日)・11(日)・18(日)
 午後2時～4時
 対 象：16歳以上の方
 会 場：5階 研修室1
 受講料：2400円（一律、講座当日にお支払い）
 定 員：40名（事前申込先着順）オンライン10名
 講 師：滝口明祥氏（大東文化大学文学部教授）
 内 容：太宰治活動期の近代文学史の流れについて学び「思ひ出」「女生徒」「津軽」を、読み直します。

お申込みは、電話（03-5813-3730）又は窓口インターネット[近所 de まなびナビ]で検索
 イベント・講座情報→講座予約システム
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の中止、延期もございます。予めご了承下さい。



足立区堀之内公園(大賀ハス)

令和4年8月「月例会」のご案内

8月は、猛暑期の為 休会と致します。

令和4年9月「月例会」のご案内

日 時：9月15日(木) 午後3時5分
 場 所：生涯学習センター5階 研修室4
 テーマ：新会員の活動報告：板部裕子さん
 現会員の活動報告：未定

*皆様の積極的な参加をお待ちしています。
 （ボランティア活動推進部）

- ◎ 運営委員会
 8月1日(月) 午後2時半～4時 研修室4
 9月1日(木) 午後2時半～4時 研修室4
- ◎ 月例会
 8月 休会
 9月15日(木) 午後3時～5時 研修室4
- ◎ 学習支援部
 8月 休会
 8月15日(水) 午後1時～2時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
 8月 休会
 9月7日(水) 午後2時～4時 ワークルーム
- ◎ 事務局
 8月2日(火) 午後2時～4時 ニュース発送
 8月9日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
 9月13日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
- ◎ 広報グループ
 メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
 8月 休会
 9月15日(木) 午後2時～3時 研修室4
- ◎ 大学塾講座企画会議
 8月1日(月) 午後1時半～2時半 研修室4
 9月1日(木) 午後1時半～2時半 研修室4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
 8月8日(月) 9月12日(月)

★お問い合わせ＆ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
 事務局 江川武男 電話：090-3105-8140
 E-Mail : takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp
 E-Mail : kambe.akira2@gmail.com

編集後記

ごみ問題 “廃プラスチックはどこへ”

日本では「包装容器リサイクル法」のもとで、自治体で分別回収・リサイクル「再資源化」されていますが、またその反面でリサイクルしきれなかったプラスチック(汚れた廃プラスチックも含む)は、中国へ「資源」として輸出され、更に行き場を失いベトナムやタイ、マレーシアなどへも輸出され、現地では再資源化が進んでおらず、不法投棄、野積みによる発火やダイオキシン発生などの環境汚染問題を引き起こしました。2017年、先進国で処理しきれない廃プラスチックの主な受け皿となっていた中国は輸入禁止処置を実施、そのことにより、日本だけでなく、欧米も国内でリサイクルしきれず行き場を失い中国に頼っていたリサイクルを、自分たちで処理しなければいけないという「自国内処理の原則」に立ち返らなければならない循環型経済への対応を迫られる事となりました。次号では、プラごみ “生態系への影響は” を掲載いたします。

(金子 記)